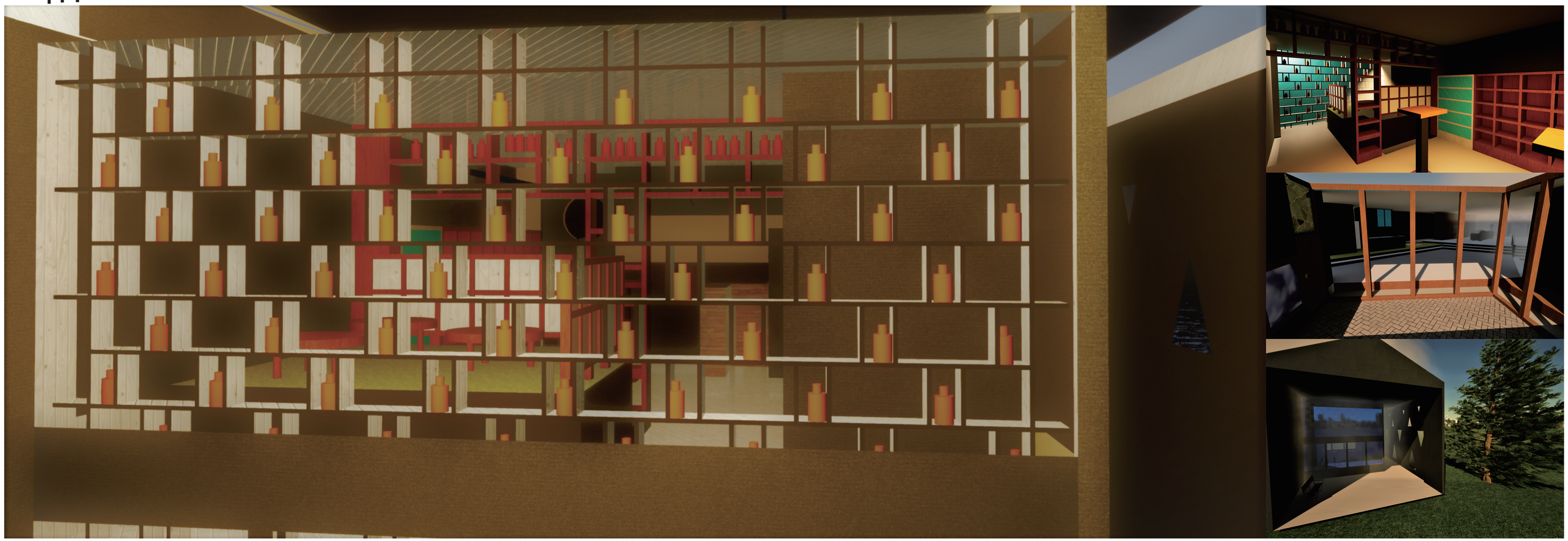
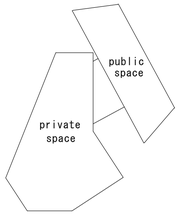
和 なごみ

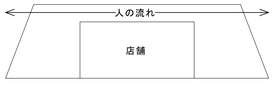


コンセプト

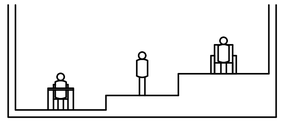
秋田県は積雪量が多く、日本一日照時間が短いことが特徴として挙げられる。そんな中で雪国の良さである雪景色が生活の中に取り込まれることは豊かな住空間への一歩だと考えられる。そこで雪景色を楽しみながら足湯に浸かり食事を行うことができるカフェと、秋田の暗い夜を彩る日本酒バーの二面性を持つ店舗付き住宅を提案する。



店舗付き住宅において逃れられない問題点は店舗部分のパブリックスペースと住居部分のプライベートスペースの関係性である。ここでは双方の間に家族と店舗従業員スペースを設置することでセミパブリックを提供し、店舗と住宅が心地良い関係で隣接することができる。



店舗の横に通路を設けることで通り抜けできるようにしてあり、道の先にある神社とのコネクトを重要視した。



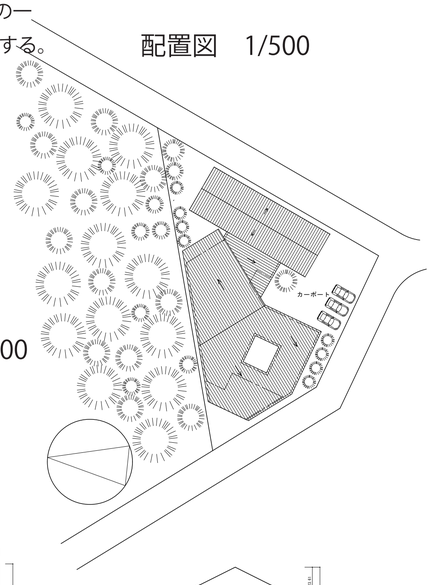
高さによって空間を区切ることで壁を減らし大空間を作る

面積表

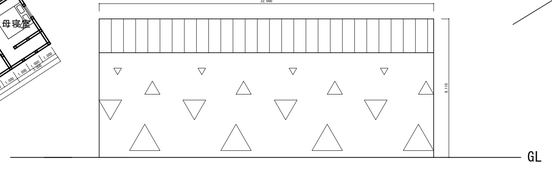
1 階面積 402 ㎡　2 階面積 72 ㎡
建築面積 606 ㎡　延べ床面積 474 ㎡
建ぺい率 60%　容積率 47%

1 階平面図　1/200

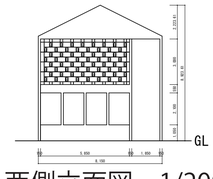
2 階平面図　1/200



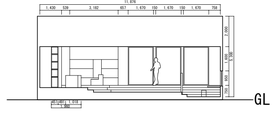
配置図　1/500



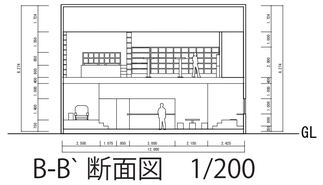
南側立面図　1/200



西側立面図　1/200



A-A` 断面図　1/200



B-B` 断面図　1/200

二世帯住宅で祖父母が高齢のため住居は 1 階建てで中庭によって祖父母と他の家族の住居スペースが区切られている。
中庭があることで通行人の目を気にせず外にも出ずに家の中で雪景色を楽しむことができる。さらにお風呂と中庭が面しているので湯船に浸かりながらも雪景色を見ることができる。
住居とはプライベートの領域と共同の空間に二分化されている。その為家族の活動が分断され個々の空間に成り代わってしまう。
リビングでは住居内の使用用途の違う空間を高低差でレベル分けすることで柔らかな境界により区切っている。これにより個人の活動が近すぎず離れすぎないことでプライベートを保持しながら家族がリビングを中心に交わってゆく。

店舗は一階が足湯カフェ、二階が日本酒バーとなっている。日中は足湯カフェ、夜は日本酒バーが主となるが一階の足湯カフェでも日本酒を嗜みながら足湯に浸かることができる。雪景色を見ながら食事を楽しむことができる。二階の日本酒バーは表側の壁がガラス張りになり魅せるディスプレイとなっている。勿論ディスプレイされているお酒も飲むことができ舌と目で空間を味わうことができる。スペースが広いため地域の集まりや宴会を行うことができ、地域のコミュニティの場にもなり得る。